

今週のトピックス

9月9日編集

○有峰における堅果類（ブナ・ミズナラ）の豊凶調査結果

堅果類（ブナ・ミズナラ）の豊凶がクマの市街地への移動・出没に影響すると考えられています。昨年はブナが凶作で、市街地での熊の目撃・被害が多発しました。

富山県農林水産総合技術センター森林研究所森林環境課中島春樹氏より、今年の有峰における堅果類（ブナ・ミズナラ）の豊凶調査結果について、昨年と対比したデータで情報提供戴きました。

結果は以下の通りです。

●ブナ及びミズナラの堅果類（ブナ・ミズナラ）の豊凶調査結果

□ブナ 2019年同様、2020年も凶作

・祐延ダムと有峰湖の中間付近、峠谷、下駄谷の3か所で調査した結果です。

□ミズナラ

・以下の湖岸の4か所での調査結果です。

	猪根	西岸	峠谷	東谷
2019	0.69 (不)	0.50 (凶)	1.83(不)	2.28(並)
2020	2.42 (並)	2.72(並)	1.39(不)	1.20(不)

評価方法：50cm枝当たり堅実数で評価

峠谷と東谷では昨年より少ないのですが、凶作ではありません。

作柄区分：0.6まで凶作、1.9まで不作、5.6まで並作、5.6以上豊作

富山県農林水産総合技術センター森林研究所森林環境課 中島春樹氏からの情報提供による

【考察】

昨年、冷タ谷遊歩道、西岸線及び東西半島では、ミズナラの樹上で熊棚を多く発見しました。熊棚ができたミズナラの木の下には外果皮だけが落ちていました。また、褐色の糞も発見しました。熊も堅果類（ブナ・ミズナラ）の豊凶の状況、どの場所が豊作か？本能的に察知しているのでしょうか。昨年同様、今秋季も、市街地での熊による被害が懸念されています。猪根山で実（ドングリ）の付いたミズナラを撮影しました。小池伸介著「森と生きる。ツキノワグマのすべて」にはミズナラはブナより栄養価は低いものの、デ

ンブんに富み、実も大きく、秋の主食になっていることを記載しています。ブナの豊作の周期（サイクル）は5~8年、ミズナラのそのサイクルは短いといわれています。一方、豊凶の影響が少ないトチノキは有峰に分布しています。トチノキの実、ツキノワグマの秋の主食とはならないのでしょうか？トチノキの実にはサポニンやタンニンが含まれていて、渋いので食べないという報告もあります。「森と生きる。ツキノワグマのすべて」ではトチノキの新芽を食べることが報告されています。今後の調査が必要です。

富山県森林研究所、富山県立山カルデラ砂防博物館や富山市科学博物館等と連携・協力した有峰におけるツキノワグマの生態、特に食性の経年的・継続的な調査も必要と考えます。

有峰は、ブナやミズナラの森で、ツキノワグマの恒常的生息域です。有峰の森から問題提起・提案・情報発信ができればと考えています。

○参考文献

小池伸介著「森と生きる。ツキノワグマのすべて/文一総合出版



ミズナラの近影（猪根山にて9/6撮影）



昨年のミズナラに作られた熊棚（冷タ谷にて9/6撮影）



トチノキの実 (冷タ谷にて9/6撮影)



実が付いたトチノキ(西岸線の道路沿いにて9/6撮影)



ブナが分布する桐山散策路 (9/7撮影)

ブナの実は付いていません

昨年はミズナラで熊棚が多く発見されました

○「愛着の森」実施報告

TOGA 森の大学校長長谷川幹夫先生を講師に招聘し、有峰だいき会（会長：中川正次氏）の主催行事の一つ「愛着の森」を9月6日（日）に開催しました。この「愛着の森」は、平成26年度から実施されています。

「愛着の森」の目的は、有峰の森のうち、典型的な3

つの林（ヤマハンノキ林・トチノキ林・カラマツ林）で木の種類、胸高直径、木の高さなどを測定し続け、経年変化を知るとともに、3つの林の違いを学び、有峰さらには富山県内の森への愛着を深めることです。

10:00 に有峰ビジターセンターに集合し、オリエンテーションを実施、講師の長谷川先生より、調査の意義や調査方法、ヤマハンノキの雑学について解説戴き、引続き有峰森林文化村次長吉江より開催の挨拶で、オリエンテーションを終了しました。

参加者は、講師の長谷川先生はじめ、会長の中川正次氏他12名でした。その後調査地猪根谷に移動し、10:30より調査地・猪根谷で、長谷川先生指導の下、調査を開始しました。参加者は、猛暑の中、防虫ネットをかぶり、木の種類、樹高直径、木の高さなどを測定しました。調査終了後、参加者全員でバーベキュー広場にて昼食を取りました。昼食後、森のミニコンサートも実施、その後、解散となりました。猪根谷は、ヤマハンノキ林で、主要樹種はコバノヤマハンノキです。参加者は、ほぼ毎年継続的に参加されている有峰だいき会のメンバーであり、今年も木を測り続けて森を知る良い機会となりました。

有峰だいき会による「愛着の森」の活動（調査）は、有峰の森の植生、木々の生態、遷移を知るために大変貴重であり、昆虫を含む動物の分布・生態を研究するための重要なヒントとなると考えています。

「愛着の森」の活動は、有峰森林文化村の財産です。



オリエンテーションで解説中の長谷川先生 (ビジターセンターにて9/6撮影)



胸高直径測定中の参加者（猪根谷にて 9/6 撮影）



胸高直径測定中の参加者（猪根谷にて 9/6 撮影）



バーベキュー広場にてミニコンサート（9/6 撮影）